

また、モーセは律法（モーセ五書：創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）を、エリヤは預言書（ヨシュア記、士師記、サムエル記上、サムエル記下、列王記上、列王記下、イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、十二預言書[ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書]）を象徴している。

マタイによる福音書は、イエスが旧約聖書の成就者であることを示唆している。エリヤはイエスが誕生する 800 年以上前のイスラエルの預言者で、後の預言者の中には、神の裁きを警告するために神がエリヤをこの地上に再び遣わすと期待した者もいた（マラキ 3：1～4、3：23～24）。

→ルカによる福音書 9：31

二人（→モーセとエリヤ）は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期（＝Exodus：出発、旅立ち→地上生涯から旅立ち、父なる神のもとに行く、つまり「死」[≠サナトス：通常の死]、日本聖書協会共同訳、口語訳では「最後」になっている）について話していた。

04（すると）ペトロが口をはさんでイエスに言った。

「主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋（口語訳：小屋、日本聖書協会共同訳：幕屋）を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」

→（リビング・バイブル：）これを見て、ペテロは思わず口走りました。

「ああ、先生。なんとありがたいことでしょう。こんなすばらしいところに居合わせるなんて！もし、よろしければ、幕屋（神がイスラエルの民と会う聖所）を三つお建てしましょう。あなたと、モーセとエリヤのために。」

05 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲（→シャカイナグローリー）が彼らを覆った。すると、

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。（モーセでもエリヤでもない。）これ（＝イエス）に聞け」という（天からの）声が雲の中から聞こえた。

→“This is my Son, whom I love; with him I am well pleased. Listen to him!” (NIV)

→“This is My beloved Son, in whom I am well pleased. Hear Him!” (NKJV)

06 弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。

07 イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」

08 彼らが顔を上げて見ると、（モーセもエリヤもおらず）イエスのほかにはだれもいなかった。

【参考】ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネ

< 1 > ペトロ（ペテロ） Petrus/Peter

→Peter「岩」（ギリシア語） 漁師／ガリラヤ・ベトサイダ出身／アンデレの兄

ペトロ（ギリシア名 Petros：ペトロス、生まれ：ベトサイダ、パウロと共に二大使徒と呼ばれる）はガリラヤ湖の漁師でヘブライ名はシモン・ペトロ、ペテロ、ケファともいわれる。本名は「シモン」（ヘブライ語読みでは「シメオン（聞く）」שמעון。「シモン」は「シメオン」の短縮形）であるが、イエスにより「ケファ（Cephas）」（アラム語で岩の断片、石という意味）というあだ名で呼ばれるようになった。

十二弟子にはもう一人、「熱心党のシモン」がいるので、区別するために「ペトロと呼ばれたシモン」「シモン・バルヨナ」「シモン・ペトロ」とも呼ばれる。十二使徒の最長老でリーダー的存在。

ガリラヤ湖で弟アンデレと漁をしている時に「人間をとる漁師にしよう」とイエスに声をかけられ、弟子になった。情熱的で誠実だが、人間的な失敗も多かった。イエスの名によって奇跡的治癒を行っている。主イエスの変容（姿が変わって神性を示した出来事、マタイによる福音書 17：1～13）をペトロはヤコブとヨハネの選ばれた三人だけで目撃している。イエスが逮捕された時、他の弟子達は官憲の追跡から逃

げたが、ペトロは官憲に捕まった。イエスのことを三度尋ねられたが、私は知らないと言い通した。イエスの復活時にはヨハネと共にイエスの墓にかけつけている。イエスの死後は原始キリスト教会の指導者として活躍した。ヤコブ（イエスの兄弟）がエルサレム教団のリーダーとして活躍しはじめる頃、ペトロはエルサレムを離れ、各地の教会をめぐるようである。

ローマで布教していた時（AD67年？）、皇帝ネロの迫害により逆さ十字架（イエスと同じ方法で処刑されるわけにはいかないと逆さ十字架を申し出た）にかけられて殉教した。彼はローマのサン・ピエトロ大聖堂に埋葬されたとされているが、真偽については論争が続いている。

※Quo vadis, Domine? : クオ・ヴァディス・ドミネ：主よ、どこに行き給うか？（ヨハネ 13：36）

ペトロは迫害が激しいローマを逃げ出してアッピア街道を歩いていると、反対側から来たイエスに出会った。「主よ、どこへ行かれるのですか？」と聞くと、「もう一度十字架にかけられるためにローマへ」と答えた。彼はそれを聞いて、死を覚悟してローマへ戻った。

< 2 > ヤコブ：大ヤコブ（ゼベダイの子） Jacobus

→James「かかとを掴む者」（ヘブライ語）ゼベダイの子、漁師／ガリラヤ出身／ヨハネの兄（最初の殉教者）

ヨハネの兄で「ゼベダイの子ヤコブ」である。「アルファイの子ヤコブ」と区別するため「大ヤコブ」（年長のヤコブ）とも呼ばれる。父はゼベダイ、漁師であった。弟のヨハネと共にガリラヤ湖畔で網の手入れをしていたところをイエスに呼ばれ、そのまま父と雇い人を残して弟のヨハネと共に弟子になった。

二人はともに血気盛んで向こう見ずなところがあり「ボアネルゲス」（雷の子ら）と呼ばれていた。

イエスが捕らわれる直前、オリーブ山のゲツセマネに向かった時に、ヨハネ、ペトロと同行した。しかし、イエスの苦悩の祈りをよそに眠り込んでしまった。

キリストの死後、6年間スペインに行き布教活動を行った。エルサレムに戻るとキリスト教徒への迫害はすざましく、「使徒言行録」12:2によるとユダヤ人の歓心を買おうとしたヘロデ・アグリッパ1世によって捕らえられ、殉教（斬首）した。使徒の中で最初の殉教者である。

彼の弟子達はパレスチナを離れ、遺骸をスペインのコンポステラ（campus stellae：星の野原）に運んだとされている。

< 3 > ヨハネ Johannes

→John「神は慈しみ深い」（ヘブライ語）ゼベダイの子、漁師／ガリラヤ出身／大ヤコブの弟

ゼベダイの子で大ヤコブの弟、ガリラヤの漁師の子。イエスを洗礼した洗礼者ヨハネの弟子。洗礼者ヨハネと区別するために特に「使徒ヨハネ」と呼んだり、「ゼベダイの子ヨハネ」「福音記者ヨハネ」と呼ぶこともある。ヤコブ、ペトロと共にイエスの一番弟子であり、常にイエスと行動を共にした。

兄弟ともに性格が激しく、勝ち気で、自分こそイエスの一番の弟子だと考え、仲間たちから〈ボアネルゲス〉（雷の子ら）とあだ名をつけられた。イエスが十字架にかけられたときも弟子としてただ一人、十字架の下にいた。また、イエスの墓が空であることを聞いてペトロとかけつけ、真っ先に墓にたどりついた。

イエスの母マリアを連れエフェソに移り住んだヨハネは、その後、パトモス島（エーゲ海に浮かぶギリシアの小島）に幽閉され、そこで「ヨハネの黙示録」を記した。十二使徒の中でただ一人殉教せず、95歳まで生きたとされる。

【参考】貌（部首：豸（むじなへん）、音読み：ボウ、訓読み：かたち、種別：常用漢字）

1. 物のかたち・すがた。顔かたち。
「容貌・風貌・美貌・面貌・顔貌・形貌・体貌・変貌・全貌・相貌」
2. 外観。見かけ。うわべ。
「外貌」
3. みたまや（神道において祖先の霊を祭るための神棚） 4. はるか、遠い